



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 24 年 3 月 23 日(金)
のしろ市民まちづくりフォーラム 編

昨年度は東日本大震災の影響で直前に開催を断念せざるを得ませんでしたが、今年度は年度末の 3 月 23 日、能代山本広域交流センターにおいて「のしろ市民まちづくりフォーラム～日本風景街道を通して私たちにできること 4～」を開催することができました。

講演の講師には、元高知県梶原町長の中越武義氏をお招きし、「自然エネルギーや木材を活かしたまちづくり」と題する貴重なお話に約 50 人が耳を傾けました。梶原町は風力発電機の設置をきっかけに「自然エネルギーのまち」として有名になりましたが、中越氏は、地域の資源や特性を活かして住民と行政が同じ方向に向かってまちづくりに取り組む必要があることを強調。さらに、梶原町は 6 地域が合併した町で、各 6 地域は現在も「区」として機能しており、選挙で区長を配置し、地域住民が主体的に課題に向かえる体制になっているとのことでした。

また、のしろ白神ネットワーク同様、風景街道事業に取り組んでいる同町と周辺地域では「サンショウウオに会える道」を始めいくつかのルートがあるがそれらが点で終わることなく、互いに連携しながら線で結ばれていなければいけないとの認識を示されていました。

講演は 1 時間半にわたり、写真などの資料をたくさん見せていただきながら、中越氏のまちづくりに対する熱い想いを感じ、参加者も興味深く聞き入っているようでした。

文：小野 さくら

ご講演の後は、佐々木貴信先生・元山本地域振興局長の加賀屋健一さん・東北地方整備局の舟山和重さんからの話題提供があり、それを受けて植野さんをコーディネーターにフロアディスカッションが行われました。

最初に齊藤能代市長より、自分たちが住んでいるところのすばらしさや街の良さについて、住んでいる人自身がいえないと寂しい。失敗をおそれずに徐々に完成を目指していくことが大事だがなかなかできず反省しているとお話がありました。

中越さんへは、総合的なまちづくりはプラン通りに進められているのかとフロアから質問がありました。初めに計画ありきではない。住民からの提案を自治体を実施するのではなく、まず自分たちができることを考えるのが必要。10 のうち、1 か 2 でも実施できれば住民に力が付き、自信ができる。住民だけでなく行政もともに考えることで物事が解決していく。地域の将来に繋がることを住民と行政とが助け合い、支え合って進めていくことが必要とのお答えでした。

文：川口 文弘



遠路能代までおいで下さった中越さんと役場職員の坂本さん。91%を森林が占める高齢化率40%の町でどうして元気な取り組みができるのか、秋田・能代にないものが良く分かるお話でした。



時期が悪かったのか、広い会場は少ない参加者が目立ちました。梶原のお話は同じ日本とは思えず、NWの道のりは相当に遠いものに感じました。



NWの送別会も兼ねた交流会。会場で聞けなかった梶原のお話は魅力満点でした。みなさん、どこへご異動になっても、変わらぬご支援よろしく願います。